



和梨栽培における7月の管理のポイント

男鹿地区営農センター 加藤 勇輝



●仕上摘果

樹上選果をかねて小玉果や果形不良果、病虫害果の摘果を行ってください。特に今年度は雹害が確認されており、被害が果実肥大につれて目立ってきていますので、摘果するようお願いいたします。ただし霜害・低温の影響によって結実が確保できていない樹に関しては、成り枝・樹当たりの着果量を考慮しつつ、行いましょう。

着果量の目安

品種	着果間隔	10a当たり着果数
幸水・豊水	3果そうに1果	8,000～10,000果
あきづき	4～5果そうに1果	6,000～8,000果
南水	4果そうに1果	8,000果
秋泉・かほり	5果そうに1果	6,000果

※「幸水」は満開後70～90日の果実肥大が旺盛であるため、裂果が発生する可能性があります。そのため摘果は満開後70～90日（7月13日～8月2日頃）を避けて行ってください。

【参考】秋田県果樹試験場天王分場 「幸水」満開日

満開	5月4日
満開70日	7月13日
〃 80日	7月23日
〃 90日	8月2日



●新梢管理

1. 新梢の整理

太い枝の分岐部の周辺、主枝や垂主枝の直上から発生した新梢を剪去してください。主枝背面の日焼け防止、樹勢維持をするため取りすぎには注意が必要です。また発生位置が良い新梢については予備枝として養成するため、周辺の新梢を剪去・誘引し光を十分に当てましょう。

2. 新梢の誘引（腋花芽の育成）

腋花芽の花芽分化は、新梢停止後10～20日頃から始まります。予備枝を棚面に対して45度程度の角度で、新梢が舟底状になるよう枝の中心部を誘引し、伸長停止を促すことで花芽形成を促進させてください。特に「あきづき」については品種特性で花芽形成がしにくいので、優先的に行うようにしてください。

